

滋賀県文化審議会評価部会

第 16 回(平成 31 年 3 月 18 日開催)会議の概要

1 議題

- (1) 平成 30 年度個別事業評価について
- (2) 評価指標について

2 主な意見等

議題(1) 平成 30 年度個別事業評価について

【びわ湖ホール 名曲コンサート 華麗なるオーケストラの世界 vol. 1】

- 公演後の広がりを考えて、感想など日常的に意見が言える環境を、SNS 等を活用するなどして整え、次につなげることが必要である。
- その場で感動をどれだけ深められるのかが重要。演奏する人との交流やリハーサルの見学など、より身近な形で体験できれば、より深く音楽に親しめるのではないか。
- 聴衆をどう育てるか、演奏する人をどう育てるかの二面性から色んなことにチャレンジする企画があっても良いのではないか。
- 事業の目的、主旨を「クラシック音楽のファンの拡大」と定めるなら、アンケートでその効果を測らなくてはいいけないが、現在のアンケート内容では把握できない。
- 1つの事業で重点施策のすべての項目に対して、均等に効果を上げる必要はない。施策毎、事業毎にどういう貢献を目指しているのか、メリハリをつけた方が良いのではないか。
- 良いプログラムで安い価格の公演だったが、若年層の鑑賞者が少なかったと思う。学校と連携するなど、効果を上げるための働きかけの仕方に工夫があれば良かった。

【芝居小屋「長栄座」新春公演 湖国にて 歌と和楽器の出逢いの刻】

- 1つの事業に多くの重点施策の項目を求めすぎているのかもしれないと思う。
- 現場に行きって意見交換し、審議会で評価について改めて意見を交わすことは大事。評価シートを作ると形骸化しがちである。
- 事業評価シートの目標には「誰もが気軽に楽しめる機会の拡充」という記述があったが、評価項目として、重点政策 9 との関連が割り当てられていない。それは評価指標に該当する項目がないからである。
- 「長栄座」の事業は、滋賀県のアイデンティティになっている。これをブランドとするにはもう少し投資が必要なのではないか。
- 若手の発掘育成のための事業なのか、滋賀のブランド力を高めるための事業なのかの目的が混同している、未分化の部分がある。それを峻別していく必要がある。

議題(2) 評価指標について

- 「県立文化施設の文化ボランティアの数」を評価の指標としているが、その中に混在しているであろう、本来は行政がやるべきことと、住民に入ってもらい協働すべきことをしっかりと仕分したうえで評価をやっていかないといけない。あやふやなままだと住民との協働に結びつかないで、誤解を招く方向に進みかねない。

- 例えば、県の事業として、子どもの文化芸術を体験する事業を行う場合には、指標で測るべきこととして、その事業の参加数や参加者にどのような変化があったかも重要だが、県全体の子どもたちの文化芸術に関する状況にどのような変化をもたらしたかということも必要である。
- 子どもに関しての指標を測るならば、滋賀県では「こども食堂」の活動が盛んなので、そういう場で文化芸術に関するヒアリング等の調査ができれば良いのではないか。
- 例えば、県民が芸術に触れて感動した時にどのような行動をとるかといった言動等のパターンを拾っていくことにより、それが定性的にどのような影響を与えているかというのを指標にできたら面白いのではないか。
- 評価指標のポイントは、重点施策に書いてある、何を目指しているのかというキーワードである。そこに直接対応するような指標を設定することが大事である。
- 指標を作ることが目的になってもいけない。元々、指標は政策改善のためのものである。すべてに適切な指標が設定できるとは限らないし、必ずしも指標だけですべてを表せない
- 指標が現場を苦しめていないか、意味のない数字になっていないかを点検して、指標自体を変えることも必要だと思う。
- 次回の基本方針の改定時には、国の文化芸術基本法、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、障害者文化芸術活動推進法の３つの要素を入れるべきではないか。時代の流れに合わせるべき。
- なぜ指標が大事かと言うと、説明責任、結果責任を果たすため。どのような有益な変化を将来に目指しているのかを明らかにするためである。

その他

- 現在の「滋賀県文化振興基本方針（第２次）」は、平成２８年度～平成３２年度までの５年間の方針である。しかし策定から３年を経過し、その後の状況の変化によって、設定した指標が目指している施策の目的に合わなくなったものがある。来年度、評価項目の一部の見直しを検討し、新たな指標で評価してみるのはいかがでしょうか。

以 上

平成 30 年度における県立文化施設等の個別事業評価に伴う事業の視察について

● 芝居小屋「長栄座」新春公演 湖国にて 歌と和楽器の出逢いの刻

主 催：滋賀県立文化産業交流会館

事業内容：明治時代に長浜市に建てられた癒しの芸能空間＝芝居小屋「長栄座」を文化産業交流会館イベントホールに期間限定の特設舞台として再現し、平成 23 年から 7 年間、古典芸能に親しむ環境づくりに努めてきた。今年度も創作邦楽作品から古典の本格的な作品まで幅広いラインナップを上演することで誰もが気軽に親しめる機会の拡充を図り、日本の伝統文化の魅力を再発見していただくことを願い開催した。

創作邦楽作品から古典の本格的な作品、滋賀県の寓話を元にした新作音楽劇、米原市をテーマにした新作の邦楽組曲を 2 部構成で披露。ロビーでは、滋賀県内の伝統産業の製品を展示販売した。

会 場：滋賀県立文化産業交流会館

視 察 日：平成 31 年 1 月 20 日（日）

出席委員：中川部会長、上田委員、吉田委員

● びわ湖ホール 名曲コンサート 華麗なるオーケストラの世界 vol.1

主 催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール・公益社団法人日本センチュリー交響楽団

事業内容：このコンサートでは「これぞ名曲！」といわれる交響曲や協奏曲など、魅力ある楽曲をオーケストラの生の演奏でお楽しみいただき、クラシック音楽ファンの拡大を図る。今回は「華麗なるオーケストラの世界 vol.1」と題し、ヨーロッパの歌劇場で多くの舞台に立つ指揮者阪 哲朗（ばんてつろう）と、大津市出身で 2017 年のミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で第 3 位に入賞した滋賀が誇る若手ピアニスト久末 航（ひさすえわたる）を迎えた。

会 場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

視察日：平成 31 年 2 月 10 日（日）

出席委員：井上委員、片山委員